

目標を目ざして

フィリピの信徒への手紙 第3章12～14節

私は、すでにそれを得たというわけではなく、すでに完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスによって捕らえられているからです。きょうだいたち、私自身はすでに捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

新学期がはじまりました。新しい目標を立てて新学期をスタートされた方も多いのではないのでしょうか。目標を立てることは大切なことです。目標に向けて、日々の生活を営んでいきます。パウロは「目標を目指してひたすら走る」と言っています。一度目標を立てたら、それに向かってひたすら走るのですから、ゴールを間違えないようにしなければいけません。私はかつて、月に一度、岡山の被災地支援に通っていました。毎回、レンタカーを借りてナビに頼りながら走っていたのですが、ある日、いつもとは雰囲気の違い空港に到着しました。実は岡山には空港が二つあり、私は誤った空港をナビに設定してしまっていたのです。ひたすら走った末に、まったく違う場所に到着してしまいました。ゴールの設定が間違っていたのです。ひたすら走っても、目標の設定が間違っていれば、迷子になってしまう。何を目指して生きていくのか、目標を常に吟味しつつ、設定する必要がありますね。

では、パウロの目標を見てみましょう。パウロはかつて、律法の遵守や宗教的な実績を誇りとし、人々から高く評価されていた人物でした。しかし彼はそれらを「損失」とさえ言い切りました(8節)。人の評価ではなく、神の評価を目標としたからです。そのパウロが14節でこう言います。「キリスト・イエスにあって神が上に召してくださる賞を得るために、目標を目指して走っている」パウロの目標は、イエス・キリストにあって召してくださる神の賞でした。「人に認められたい」「評価されたい」という気持ちは、誰にでもあります。しかし、人の評価というのは変わりやすいものです。

昨日褒められたことが、今日は批判される。あの人には認められても、この人には認めてもらえない。人の評価を目標にして走り続けると、そのうちにゴールがどこにあるのか分からなくなってしまいます。そして気づけば、自分がなぜ走っているのか、何のために生きているのか、自分の使命すら見えなくなってしまう、疲れ切って走れなくなります。神の目を意識して、神の前にどう生きるかが大事なことです。



大学宗教主任 岩上 真歩子

そしてその目標に向かって走るパウロの姿勢が、12節に表れています。「私はすでに得たとか、すでに完全にされたとか言おうとしているではありません」パウロは自分の達成を誇るのではなく、まだ途上にある者として、前に向かって走り続ける姿勢を持っていました。そして13節には、こんな印象的な言葉があります。「うしろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ(身を伸ばし)」 「うしろのもの」——それは過去の栄光かもしれません。あるいは過去の失敗や後悔かもしれません。つい気にしてしまう人からの評価や期待もそうかもしれません。パウロはその一切から目を離し、前にあるキリストだけを見据えてひたすら走り続けたのです。

「ひたすら走る」というと、広い場所を自由に駆け抜ける姿を思い描くでしょう。しかし、実はパウロはこの時獄中にありました。自由が奪われていたのです。自分で選択する自由がない、明日生きられるかどうか分からない。彼がおかれていた環境、状況を想像しながら、パウロの気持ちを想像しながらこの御言葉を読むとまた違う印象を持つのでは無いでしょうか。パウロは、「イエスキリストを宣べ伝えたこと」のゆえに囚われていたのです。パウロが神の賞を得るために行っていたことのゆえに、人々から嫌われ、うとまれました。もし自分が同じ立場ならば、どうなるでしょうか。気持ちが暗くなり、投げやりになってしまうかもしれませんね。「なんで良いことをしているのに、だれかのためにしているのに、人から嫌われるんだろう」と悲しくなるかもしれない。でも、彼は言うのです。「うしろのものを忘れ、前の者に全身を向けつつひたすら走る」と。周りを見ていたら、また、自分の置かれている状況を見ていたらそうは言えなかったかもしれません。でも、パウロは走り続けました。それは、彼が神を見ていたからです。目を上にあげ神を見るとき、神の目だけを意識する時に私たちの心は自由になるのです。神を見上げていきましょう。この神はわたしたちを造り、私たちの罪の贖いのために十字架にかかり、蘇られた方です。そして、「見よ。世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」と約束してくださった方。どのような状況にあっても、人が理解してくれなくても、変わらずに愛に満ち、わたしたちの存在をいつでも受け止めてくださる神です。この神を見上げて、神を求めて「ひたすら」走っていきましょう。

お祈りしましょう

天の神様、人の評価に振り回されず、あなたに目をあげて、「神の賞」を得ることを目標に走り続けることができるように私たちの心を守り、導いてください。イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン

祝福

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔の光であなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けてあなたに平和を賜るように。アーメン